ネメシスとして幻想入り

xhanku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ネメシスとして幻想入り

【Ｎコード】
Ｎ５４２０Ｚ

【作者名】
ｘｈａｎｋｕ

【あらすじ】
目が覚めれば知らない森の中・・・
え？どここここ？何この体、触手とか気持っち悪ッ！え？これが自分？！
嫌だあああああああ！！！！！！！！！

不定期更新です。あと、作り直しましたー^^;

ぷろろーぐ（前書き）

作り直しましたー＾＾；

この回だけちょっと変ですが、次からは直します。

ぷろろーぐ

目が覚めれば森の中

待て、色々おかしい、そして何故か同様していないぞ

そういえば、こういう『目が覚めたら知らないどこか』ってのは定番だよな・・・うん

ハハハ・・・きっとこれは夢の中だ！そうに決まっている！じゃなきゃ背にこんな大木があるはずは無い！

・・・半径５ｍってところか？太すぎね？

えーい！考えに深けすぎては進まない！道は進むために前にあるのだ！（誰かの言葉）

さぁ！立ち上がれ！俺えええええ！！！！！！

［ガチッ！］

ん？金属音？

なんで立ち上がったときに金属音？

足元には草とか土とかしか無いは・・・ず・・・

うん、無いよね？足元に危険な鉄の砲筒（スティンガーミサイル）とか沢山の筒が着いた回転する鉄砲（M202ミニガン）なんて、存在してないよね？！

あれか？もしかしてあれなのか？！『転生しちゃいましたー、升選（チート）ばせると面倒なので、テキトーにやっちゃいました☆』ってやつなのか？！

・・・とりあえず、拾っておこう。

［スティンガーミサイルを拾った。］

・・・どうしよう、頭が付いていかない・・・Ｈｅｌｐ　Ｍｅ　ＥＥＥＲＩＮＮＮＮ！！！

あ、ついノリで友達の真似しちゃった☆

じゃねぇ！そうじゃねぇ！有名なホラーゲーのバ〇オのアイテム拾ったときのテロップみたいなのが流れたけど？！

ってことは、探せばあの有名な回復アイテムもあるってことか？

とりあえず、探してみよう

［ハーブを拾いますか？］

＞はい　いいえ

あった・・・しかも今度は選択肢付きで・・・

とりあえず、『はい』を選ぶだろ。

［ハーブを拾いました。］

うお！なんだか面白くなってきたぞ！だけど、これどうやって使うんだ？

あ、なんか目つぶったら、やっぱりあの有名なバイ〇のメニューが開いた。

・・・言いたいことは山ほどあるけど、とりあえず頭の鎮静用に、ハーブを

［ここでは使えません］

え？何これ？ハーブって回復アイテムでしょ？あ！そっか！調合すればいいのか！なら他にも探さなきゃだな！

ハハハ！俺ってばてーんさーい！

じゃあ、もう一つの鉄砲を取って［Ｍ２０２ミニガンを拾いました］さっそく薬草探しだ！

・・・よし、とりあえず現実逃避はこのくらいでいいだろう。

何？このロングコートと巨体は。

しかも堅くて屈強だし。

あと何気に腕に触手が入ってるんだけど。気持っち悪！

ん？この触手って、尖ってないか？

ロングコート＋巨体＝巨人

巨人＋触手＝この組み合わせはどう考えても『生物兵器（B.O.W）』

B．O．W＋ロケラン＋ガトリング＝・・・追跡者？

絶対そうだ！そうに決まってる！じゃなきゃこんな物やこんな体をしているワケがない！

よし！それで確定！この話はもう終わり！じゃあ目的を戻してハーブ探しだ！

では！出発ｄ「わはー！おいしそうなのがいたのだー！」・・・誰？！

え？何もいなくね？じゃあ誰の声？

「ここなのだー！」うーん、頭をひねっても答えは出ないなぁー

「無視するなー！」だって、ここには俺と空飛ぶ幼女しかいないんだもん

「う～、食べてやるのだー！」

「何を食べるの？」

「あ！やっと返事してくれた！じゃあ早速、いただきまーす！」

え？ちょ！なんでこっち来て・・・痛ッ！腕を噛むんじゃない！痛いってば！イタタ！

ぷろろーぐ（後書き）

相変わらずの駄文カァー

ご指摘、クレーム、感想、アドバイス、その他もろもろ何かありましたらよろしくお願いいたします；；；

毎月7日は「そーなのかー」（前書き）

サブタイはいつも適当です。

あと

「ＤＥＮＧＥＲ！この小説は、駄文という物が含まれています。Ｔウィルス以上に危険です。」

毎月7日は「そーなのかー」

腕を噛まれて数秒後

Ｓｉｄｅ　ＮＥＭＳＩＳ

「うぇ～・・・不味いのだ～」

目の前に項垂れる少女を見ながら心中で『ザマァーｗｗｗ』と思っ

ている。

だが、流石に可哀想に思えたので、何か探してみることにした。

［ハンバーガーを拾いますか？］

＞はい　いいえ

現実から目をそらし、そのハンバーガーを拾い、項垂れる少女に渡した。

「これなら食えるだろ、食べてみｒ・・・奪い取るなよ」

「おいしいのだー！」

「そうか、それならいいんだ」

ちょっとカッコつけて喋ってみる。

「そういえば、鬼さんはなんて名前なのだー？」

「ん？鬼？」

聞き捨てならないセリフ

「うん！だって、人間の顔じゃないもん！・・・ちょっと怖い顔だから鬼なのだー！」

少女のことをよーく見てみると、赤い瞳で、金髪にリボン、服装は黒が主体

全体的に西洋風の美幼女。

そんな美幼女に満面の笑みで「怖い顔」と言われる。

「あぁ、組長さん・・・いや、園長先生・・・あなたの気持ちが分かった気がする・・・」

どっかの幼稚園の組長の気持ちを理解してしまった。

「ねぇねぇ、名前はなんなのだー？」

「え？あー」

迷う、激しく迷う・・・できるだけカッコイイ名前で行きたいところだが、流石にこの容姿では無意味

ここは、本家を借りて、本当のことを言おう・・・

「俺は、ネメシちゅ・・・」

少女との間に、気まずい沈黙が流れる。

（やべぇ、噛んだ・・・どうしよう！）

「・・・ネメシスさんなのかー、じゃあまたなのだー」

少女が気まずい沈黙を破り、訂正してくれた。

そして、食べ物が無くなったことが分かり、その場を去っていった。

少女は、去り際に、頬をニヤつかせていた。

「第一印象は大事なのに、それを思いっきりダメにしてしまったなぁー・・・」

なんとも言えない気持ちが、胸の奥でとぐろを巻いている。

そんな気持ちを忘れるため、またハーブ探しに戻った。

あの後、赤色と黄色のハーブが見つかった。

最初に手に入れた緑色のハーブと調合し、薬を作った後、その辺をテキトーに散策することにした。

毎月7日は「そーなのかー」（後書き）

・・・まずい、前作とのデジャヴな部分が・・・

やべぇな・・・これなら削除する前の方がよかったかもしれない

今になって後悔

クレーム、ご指摘、感想等々　お待ちしております。

ネメシスとは女神の名前だそうだ。（前書き）

サブタイはいつもどうりテキトー

あーそうそう、”ｗｗｗ”とかの表現が嫌いな人は、ブラウザバックをオススメします。

ネメシスとは女神の名前だそうだ。

Ｓｉｄｅ　Ｎｅｍｓｉｓ

調合したハーブ（赤＋黄＋緑）をを捨てようと思ったが、やはり今後のためにとっておくことにした。

「しっかしあれだなー・・・なんでネメシスになってんだ？俺」

「説明ｗｗｗしようｗｗｗ」

「あ、じゃあお願いし・・・ねぇよ！しかも”くさってる”の意味違ってるし！」

「え？！ｗｗｗ」

つい呟いてしまった一言に反応したゾンビ（？）が、近くの茂みから出てきた。

ボロボロの服、所々欠けている皮膚、うめき声、完全に生ける屍である。

それなのに、”腐ってる”が”草ってる”になって、”生ける芝生”になっていた。

「というより、説明ってなんだよ・・・」

「ん？ｗｗｗあーｗｗｗ簡単ｗｗｗにｗｗｗ言うｗｗｗとｗｗｗ君ｗｗｗ転生ｗｗｗしたｗｗｗのｗｗｗ」

サラッと衝撃発言（確定事実）を言い出したゾンビ（？）

「は？転生？いや～・・・そういうのはみりゃ分か・・・っていたんだが、まさか本当だったとは」

衝撃発言に衝撃を（少し）受けたネメシス

「ｗｗｗあとなｗｗｗ升ｗｗｗはｗｗｗ入ってｗｗｗないよｗｗｗ」

「ははは！・・・は？」

だんだん発音が人語に似てきたゾンビが、更に衝撃な発言をする。

「だからｗｗｗ升（チート）ｗｗｗはｗｗｗ入れられてｗｗｗないｗｗｗのｗｗｗ俺ｗｗｗもｗｗｗ転生ｗｗｗ者ｗｗｗだからｗｗｗ分かるｗｗｗ」

「そうなのか」

「うんｗｗｗそのｗｗｗ追跡者ｗｗｗのｗｗｗ能力ｗｗｗがｗｗｗついてるｗｗｗだけｗｗｗ」

・・・ネメシスは、その追跡者の能力を知らなかったため、ゾンビ（？）に聞いてみた。

「おｋｗｗｗ追跡者の能力は――――

なるほど、説明になると草らないのね・・・

追跡者（Ｎｅｍｅｓｉｓ）

Ｂ．Ｏ．Ｗ．「タイラント」の性能向上のため、新開発した寄生型Ｂ．Ｏ．Ｗ．「ＮＥ－α」、通称「ネメシス」を寄生させた新型。

基本性能はタイラントと変わらないが、ネメシスの寄生により知能が格段に上昇することで、「より複雑な任務を自己の判断で継続的に遂行」「ロケットランチャー等の武器使用」などが可能となった。

また、回復能力の向上作用により、タイラントが危機的状況に陥る事によって起こる「暴走」を抑える役目も持っている。

ＮＥＭＥＳＩＳ－Ｔ型は、３つの形態を見せる。

第１形態

追跡者の最初の姿。

人間を大きく上回る巨体を持つ。

全身に防弾・対爆仕様の黒いコートを纏っているが、これは暴走を抑えるための拘束衣という面も持っている。

コートから露出した部分には、所々にネメシスの触手が巡る怪物じみた外見が確認できる。

素早く走りまわり、突進しながら殴りかかる、首を絞めた後に投げ捨てるといった攻撃を仕掛けてくるが、たまに首を絞めたまま腕から触手を繰り出してくることがある。

その硬度は人間の頭部を貫通するほどで、これを受けると即死してしまう。

また、追跡者の至近距離から遅い攻撃をすると、素早く横移動して回避する。

第2形態

激しい戦闘により拘束衣は破れ、繰り返し与えられる肉体のダメージによりネメシス自体が肥大化、半ば暴走状態になりかけている。

腕部を縦横に巡っている触手により武器の使用が不可能になり、より激しい攻撃性を示すようになる。

即死攻撃が無くなり、攻撃力も第1形態より若干落ちているが、体力は高まっている。

右腕から垂れ下がった触手により突いたり掴んで叩き付けたりといった攻撃をしてくるが、第1形態に比べ動作が大振りなので戦いやすい。

第3形態

度重なる戦闘と特殊な薬液により限界を超えるダメージを受けたタ

イラントの肉体とネメシスが、お互いに暴走状態になり肥大化。
頭部や手足を失った肉体を異常発達したネメシス本体が補完し、仰向けの状態で四足歩行を行う。
腹部からは巨大な肋骨が牙のように突き出し、薬液の毒素により巨大な水疱が浮き上がっている。
最早知性を感じさせない外観になりながらも、任務遂行のためジルに迫ってくる姿はまさに「復讐の女神」の名に相応しい。
触手による攻撃のほか、体液を飛ばして攻撃してくる。
この第３形態はアメリカ軍特殊部隊がラクーンシティに持ち込んだ、コードネーム「パラケルススの魔剣」というレールキャノンを使わないと倒せない。

「で？そのＮＥＭＥＳＩＳ－Ｔ型ってのが俺なワケ？」
「ごもっともｗｗｗ」
「いや、そんなこと言われても・・・つか、ＮＥ－αってなんだよ・・・」
「それは――――

ＮＥ－α
アンブレラのフランス研究所で開発されたミミズのような姿の寄生型Ｂ．Ｏ．Ｗ．で、通称「ネメシス」。

知能に特化しており、それ自体では何もできない。

他のＴ生物の脊髄に移植されるとその体内のＴ－ウイルスを取り込み増殖、延髄付近に独自の脳を形成し、宿主の脳機能を乗っ取り知能を支配、同時に細胞賦活成分を分泌し再生力を高める。

しかし、寄生された生体に非常な負荷がかかるため、元から強靭なＢ．Ｏ．Ｗ．でなければ耐えることができずに死亡してしまう。

「ＮＥ－α」型のサンプルは、アークレイ山地の洋館の地下にある研究所にも届けられており、リサ・トレヴァーがその被検体となっているが、ネメシスは彼女の脳に寄生することなくその身体に取り込まれてしまっている。

「・・・聞きたいことは山々あるんだが・・・まず、これはどこの情報だ？」

「え？ｗｗｗこれはｗｗｗウィｋ「ストップ！ストップ！」ｗｗｗどうした？ｗｗｗ」

ゾンビが、いけない発言をしそうになったので、それを防ぐネメシス鬼のようなネメシスが、屍であるゾンビを止める・・・中々にシュールな画が出来上がる。

「あｗｗｗそうそうｗｗｗこのｗｗｗ世界ｗｗｗはｗｗｗほとんどｗｗｗがｗｗｗ能力ｗｗｗ持ってるｗｗｗからｗｗｗ」

「え？まじか？」

「うんｗｗｗ俺ｗｗｗはｗｗｗ『生ける屍と芝生を増やす程度の能力』だっておｗｗｗ」

「あながち間違ってはいないな・・・」

（俺は・・・）

ネメシスは、自分の能力を探してみる。

『追跡する程度の能力』

『任務をこなす程度の能力』

「やっぱりか・・・しかも2つ・・・」

「どした？ｗｗｗ」

「なぁ、その芝生って消せないのか？イラっとくるんだが・・・」

「無理だおｗｗｗ」

「だよなー・・・いや、さっき止められたよな？」

「あれはｗｗｗあれｗｗｗだからｗｗｗ無理だおｗｗｗ」

我慢できなくなったネメシスは、頼み事をしてみたが、変な理屈で拒まれた。

「とりあえず、そのへんを散策するんだが、一緒に来るか？」

「あのｗｗｗ流れｗｗｗでｗｗｗ何故ｗｗｗまぁｗｗｗいいやｗｗｗ行くｗｗｗ」

［ネメシスはゾンビを手に入れた］

ネメシスとは女神の名前だそうだ。（後書き）

ネメシスと打ち込む時、ほとんどタイプミスで”ネメイシｓ”になっちまうｏｒｚ

あー・・・ｗｗｗって表現を使っちまった・・・どうせ駄文だから！；；

クレームだってなんだって来いよ！受けて見せようぞ！

あ、でもでも、感想とか指摘とかだったら嬉しいなー・・・

落散ルノ（前書き）

メッルィイイイクッルィスッムァアアアアス！！！
訳：メリークリスマス

この小説では、ギャグやウケを重視していきたいんだが・・・

とりあえず頑張って投稿していきます。

ちなみに、ゾンビの”ｗｗｗ”表現は以後継続されていきます故に、
そのような表現が嫌いな方はブラウザＢａｃｋ！（キリッ

・・・をオススメいたします＾＾；

落散ルノ

生ける屍改め、逝ける芝生を仲間にしてから、かれこれ数時間

「つ、ついに森を抜けた」

「うはｗｗｗ広いｗｗｗ湖ｗｗｗ」

目の前に広がるのは濃い霧に包まれた湖

森を抜けてからその湖が地平線のように広がっているので、広大であることは理解できる。

広い・・・ホントに広い・・・

ここでネメシスは何かをひらめく

「・・・そういえばさぁ、お前って『生ける屍を増やす程度の能力』っての持ってたよな？」

「うんｗｗｗ芝生ｗｗｗをｗｗｗ増やすｗｗｗ程度ｗｗｗのｗｗｗ能力ｗｗｗもｗｗｗ」

「その生ける屍を増やして進まないか？」

「無視ｗｗｗするなしｗｗｗしかもｗｗｗなぜｗｗｗにｗｗｗ」

ゾンビはスルーしたことを指摘し、応答ではなく疑問を返す

「いや、なんとなく」

「なんとなくｗｗｗてｗｗｗまぁｗｗｗ俺もｗｗｗ使ってｗｗｗみたかったｗｗｗしｗｗｗｗねｗｗｗ」

とりあえず、ゾンビ地に耳を当て、目を瞑る。

見た目が屍なだけに、どこからどう見ても死骸になった。

「あたいの縄張りに入るなんて！いい度胸ね！」

そんな死骸を眺めていると、背後の湖の方から声が聞こえてきた。

「おい・・・おまえはｄ「うはｗｗｗチルノｗｗｗじゃんｗｗｗ」

今度は死骸（ゾンビ）の方から声が聞こえたから、またそっちに振り返ってみる。

「うはｗｗｗホントｗｗｗだｗｗｗ」

「カワユスｗｗｗ」

「？ｗｗｗ」

「（笑）ｗｗｗ」

「大ちゃんｗｗｗは？ｗｗｗ」

・・・約２０近くのゾンビが群れてチルノを見ていた。

「おい・・・これは一体どういうことだ？」

「あｗｗｗネメシスｗｗｗだｗｗｗ」

「ホントｗｗｗだｗｗｗ」

「うはｗｗｗテラキモスｗｗｗ」

「全俺ｗｗｗがｗｗｗそのｗｗｗキモさｗｗｗにｗｗｗワロタｗｗｗ」

「触手ｗｗｗ」

人数と共にレベルアップしたウザさに耐えつつ、産みの本体（ゾンビ）を探す。

・・・いた、物凄く見つけやすかった。

量産されたゾンビは顔がニヤついているにも関わらず、本体は笑っている。

すぐその本体の元へとネメシスは向かい、一発その腐った腹に拳を叩きつけた。

「グハｗｗｗ貫通ｗｗｗしてるｗｗｗ痛そｗｗｗ」

「本体ｗｗｗ」

「・・・おい、俺はあいつらも芝生が生えるなんて聞いてないぞ？」

・・・反応が無い

「ｗｗｗ」

「おい」

・・・反応が無い

「ｗｗｗ」

「おィ」

・・・反応が無い、ただの屍のようだ。

「しょうｇ「アタイを無視するなああ！！！」危なッ！」

「グハｗｗｗテラ痛スｗｗｗワロエナイ」

頭に殴りを入れて、永眠させようと思った矢先、湖上空にいたチル

ノが結晶のようなものを大量に飛ばしてきた。

いや、結晶のようで結晶ではない尖った硬いもの・・・冷たい・・・

氷だ

氷は未だに大量に飛ばされている。

そしてその氷が、ゾンビ(量産)の集団にも襲いかかった

「ちょｗｗｗ」

「痛いｗｗｗ」

「死ぬｗｗｗ」

「生きるｗｗｗ」

「逝けよｗｗｗ」

「ヤダｗｗｗ」

胴体の至るところを貫通させられ、脆い部分はもげ落ちたりしていた。

その中で、頭を貫通させられた屍は、次々と再起不能になって、重力に従い、地に倒れ伏していった。

「うはｗｗｗ死んでるｗｗｗ」

「俺らｗｗｗはｗｗｗとっくにｗｗｗ死んでるｗｗｗだろｗｗｗ」

「そっかｗｗｗ」

一方、ネメシスの方はというと、本体の頭に被弾しないように気をつけながら、盾にしていた。

「ヒドスｗｗｗ」

「ふん！アタイを無視したことを後悔するがいいわ！『氷符”アイシクルフォール”』

今度は、まばらに飛ばされていた氷がまとまり、ネメシス達を囲むように飛ばされていった。

「・・・流石に少女を撃つほど冷酷じゃないしなぁー・・・そうだ！」

またもやひらめいたネメシスは、盾にしていたゾンビ（本体）を投げ捨て「ワロエナイｗ」ゾンビ（量産）の集団の元へと駆けていった。

落散ルノ（後書き）

とりあえず投稿・・・あんまし頭が回ってないから訂正するかも・・・

クｒ（ｒｙ

逝ける芝生（前書き）

ちきせぅ・・・深夜一時まで頑張って書いたのに途中からネット繋がってなくて消えたしｏｒｚ

ってなわけでまた書き直しワロエナイ

Ｈｅｌｐ　Ｍｅ　ＥＥＥＥＲＩＮ！！！

「このＴウィルス以上に危険な駄文ウィルスは、あの隠れ名医にも治せないのかッ！」

逝ける芝生

「まだまだ！」

未だにチルノが氷を放っている。

ネメシスはその氷の投機パターンと、チルノの行動を悟り、軽々と避けてゾンビの集団にたどり着いた。

「・・・悪く思わないでくれ」

「へ？ｗｗｗ」

たどり着いて真っ先に、ゾンビの頭を掴み、豪快に振りかぶって――

「そぅいッ！」

「ア”アアアァァァァ！ｗｗｗ」

「ちょｗｗｗナイスｗｗｗスイングｗｗｗ」

「ゾンビｗｗｗはｗｗｗ犠牲ｗｗｗとｗｗｗなったｗｗｗのだｗｗｗ」

――――チルノ目掛けて思いっきり投げた・・・力加減？なにそれおいしいの？といった感じに

だが、タイラントは人間離れした筋力を持っており、ゾンビは腐食が進行している。

タイラントが振りかぶった瞬間、胴体はもげ落ち、屍が浮かべた気持ち悪いニヤけ面が飛んで行った。

「キモッ！・・・ふ、フン！アタイにはそんなの効かないもんね！」

だが、ゾンビの犠牲虚しく、軽々と避けられてしまった。

避けられた頭は、そのまま宙高く飛んで行き、星となってしまった。

『無茶しやがってｗｗｗ』

他のゾンビ達は、待ってましたと言わんばかりのニヤけ面で、綺麗に横一列になって、星となった場所に敬礼をした。

この横一列はネメシスにも好都合だったようで、順番に掴んで投げる、掴んで投げるを繰り返した。

投げられる方は

「うはｗｗｗ次ｗｗｗ俺ｗｗｗｗかｗｗｗ」
「星ｗｗｗにｗｗｗなってｗｗｗ来いｗｗｗ」
「ゾンビｗｗｗ逝っきｗｗｗまーす！ｗｗｗ」

迷惑とは思ってないようで、むしろ嬉しそうに見える。

「なんでそんなに投げてくるのよッ！”凍符『パーフェクトフリーズ』”」

「豆腐ｗｗｗ」
「おいｗｗｗ少しｗｗｗ足りｗｗｗないｗｗｗ」
「頭腐ｗｗｗ」
「イコールｗｗｗ俺らｗｗｗってか？ｗｗｗ」
「上手くないわよ！ていうか凍符よ！凍符！」

ゾンビ達のコントにすかさずツッコミを入れたチルノ

（いいｗｗｗツッコミｗｗｗだｗｗｗ君ｗｗｗはｗｗｗ天才ｗｗｗだｗｗｗバカｗｗｗだけどｗｗｗ）

そのチルノを見て、ゾンビ（本体）がこんなことを思って、チルノにグッドサインを出したまま、凍った。

「うはｗｗｗこおｔ」

「おいｗｗｗどうｓ」

敬礼したまま固まっていくゾンビ達

沢山の強化された弾（ゾンビ）が量産された。ネメシスも、拘束具となっていたコートも一部が壊され、第二形態に突入した。

第二形態となったネメシスは、沢山の手（触手）を使って量産された弾（ゾンビ）を大量に投機する。

「そんな弾幕、チョロいもんよ！」

だが、避けられてしまう。

「なら、これはどうだッ？！」

手(触手)を使い、残った全てを一気に投げ、転生したてに拾ったスティンガーミサイル（ロケラン）とＭ２０２ミニガン（ガトリング）を装備した。

そして、トリガーハッピーの如く、チルノに向けて乱射した。

「ちょ！そんなの聞いてない！」

ガトリングの素早くて重い一撃と遅くも追尾をするロケランの弾に同様し始めたチルノは、慌ただしくなった。

「おい、戦場ではその行動は命取りだｚ［ピチューン！］・・・堕ちちゃった」

チルノは、謎の効果音を立てて、墜落していった。

とある紅の館にて、一人の少女が書斎で、魔法陣を作っていた。

「フフフ、あともう少しで願いが叶うわ・・・と、これで完成ね、あとこれの起動は・・・2日後くｒ［パリーン！］キャア！」

色々と設定している最中に、書斎の窓ガラスが割れ、４・５個何かが突っ込んできた。

「お嬢様！」

何事かと、その少女の従者が駆けつけてきた。

「一体なんなのよ！・・・あ、あああ！！！！間違って起動しち

やった・・・」

少女の台詞に、従者は魔法陣の方を見る。

魔法陣は、いかにも起動してます。てな感じに怪しく光っていた。

「これは・・・」

「なんでこんな時に窓を割って侵入して来るのがいる・・・の・・・よ・・・」

少女は、突っ込んできたものを睨みつけようとそちらを見た。

「お嬢様？」

従者は、主が顔面を蒼白にしているのに異常を感じ、同じ方向を見つめた。

突っ込んで来たものてゃ、言わずもがなネメシスとチルノの勝負の産物である。

そのネメシスの弾が、気持ち悪い笑みを浮かべながら自分達の方を見ている。（敬礼付き）

傍から見れば、笑える傑作モノだろうが、捉え方が違えばホラーも

のである。

つまり、何が言いたいかというと・・・

『き、キャアアアアアアアア！！！！！』

主と従者の悲鳴が、館中に響きわたった。

逝ける芝生（後書き）

相変わらずのD駄文ウィルスｏｒｚ

そして書き直したけど、所々違っていたりするｏｒｚ

のちのち訂正加えるかもしれない

あと、クレームや感想やその他もろもろ、何かありましたらお待ちしております。

異変？なにそれおいしいの？（前書き）

サブタイ？なにそれおいしいの？

・・・とかまぁ色々と気にしたら生きていけないのです。

「面白いｗｗｗ」という感想が沢山来て、あらびっくり！

「何分、文章力の無いふつつか者ですが・・・よろしくお願いいたします。」

あと、この回で一人称のテストをしてみます。

ので、ちょっと変でイヤだと思われた場合は、感染するとあれなのでブラウザバックを・・・オススメしたくありません；；

・・・あれ？一人称って前にやって失敗したなぁ・・・

とりあえずその辺は設定説明でカバー！

異変？なにそれおいしいの？

Ｓｉｄｅ　Ｎｅｍｅｓｉｓ

「・・・いいのかな？」

俺は今モーレツに焦っている。

何故かって？それは幼女を墜落させてしまったからさ

・・・しかし、第二形態からすぐに第一形態に戻れるという事を知ったからどーでもいっか。

「・・・いいんだよね？気にしなくても」

「いいんだおｗｗｗ」

「うお！」

また心臓に悪い登場の仕方をしてきたのは、ゾンビだ。

さっきまで死んでた（元からだけど）のに、やっぱり早いな・・・

この際こいつに名前を付けようと思ったが、何分”ｗｗｗ”という芝生が印象的すぎて”ゾンビ（笑）”しか思いつかない・・・

謎の電波を受信「あれｗｗｗ突っ込まない？ｗｗｗ」しようにも、生憎そういう事が出来ない「おーい？ｗｗｗ」身体のようだ。

いや・・・もしかしたら探せばいるかも「ワロエナイｗｗｗ」しれないし・・・ってか

「うるさいよ？その腐った頭を処分して欲しいわけ？」

「ヒドスｗｗｗあｗｗｗ空ｗｗｗ」

「ん？」

何気なく空を見てみる。

「・・・なんで紅いの？」

「知るかｗｗｗ聞くなｗｗｗしｗｗｗ」

「いや、聞いてないし・・・むしろ黙って？」

「ｗｗｗ」

ん？あれ？どこまで話したっけ・・・

Ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

Ｓｉｄｅ　Ｚｏｍｂｉｅ

最初に遭った時はキリッとしたツッコミが素敵だったのに・・・い

まやあのネメシスはドライ

「心ｗｗｗはｗｗｗドライｗｗｗだけどｗｗｗ身体はヌメりｗｗｗ」

「ん？何言ってんの？・・・あれ？何か後半変じゃなかったか？」

「何ｗｗｗが？ｗｗｗ」

「・・・いや、なんでもねぇ」

あ、そうそう、本当は俺は”ｗｗｗ”という表現がデフォルトじゃないんだ☆

あっぶねあぶねｗｗｗ

量産の方はデフォルトで出てしまうそうだ。

さて、この機会を借りていろいろと説明していこうかな？

まず、この世界は幻想郷だね。

次に、俺ことゾンビは、基本的なモノとスキン（外見）を有名なホラーゲーから拝借させていただいてるんだ。

ネメシスさんこと追跡者も、拝借させていただいてます。ハイ

ちなみに、転生の過程がネメシスには無いのは、俺が神（Ｃ○Ｐ○ＯＭ）に頼んで消してもらったのさ

転生させてくれた神も同じ

そして、この世界に俺らを送って、俺に”ｗｗｗ”とかいうふざけた発言を装着させて、色々とハチャメチャにグダグダにさせている神『ガタッ！』のためにも、ここでまとめさせてもらおう。

ん？なんか音が聞こえたって？幻聴だろ。

・・・まとめるにも俺ストーリーしか知らないから・・・これはまた今度だな

ん？あれ？じゃあまとめられないやｗｗｗ

Ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

（おかしい・・・ただ黙れって言っただけなのに、こんなに黙るなんて・・・）

ネメシスは、自分が言った言葉に少し後悔をした。

（・・・故障か？いや、でも黙っていられると何か寂しいな・・・）

黙っている時間が長いので、だんだん心配になってきたネメシスは、試しに話かけてみることにした。

「なぁ、この紅の空って、一体なんだと思う？」

「ん？あー、それ紅魔卿じゃねぇか？」

「あ」

「え？あ」

少しの沈黙・・・ネメシスが大きく息を吸い込んだ瞬間、ゾンビはすぐさま耳をもいだ。

「止らるんじゃねぇかあああああ！！！！！！！」

湖周辺の森一帯に、ネメシスの怒声が響きわたった。

「すまんｗｗｗすまんｗｗｗ」

「また着いてるし・・・」

「ん？ｗあれｗｗｗ耳ｗｗｗがｗｗｗ消えたｗｗｗ」

ゾンビは、手元にあったはずの耳が無いことに気がついた。

「だったら仲間増やして探せばいいんじゃね？」

「ｗｗｗどこだしｗｗｗ」

耳が無いため、ゾンビには聞こえていない。

「あー・・・じゃあこの湖超えるから、追いつけよ？」

言っても返事がない・・・心配になったネメシスは、地面に［湖の先に行ってくる］と書いた。

「んじゃ、追いつけよー」

そして、大胆に湖の中に飛び込んで行った。

やはりとある紅の館にて

ある地下室のドアの前に、従者が5体の凍ったゾンビ(量産)を設置した。

「外見は恐ろしいけれど、きっと何かのお守りになるはず・・・」

そう、信じて・・・

異変？なにそれおいしいの？（後書き）

毎回夜中に思いついて深夜１時に書いて投稿しようとすれば、すでにネット繋がってないｗｗｗ

幸いこのような状況を理解してｔｘｔドキュメントで対策したからよかったものを・・・

このような小説（？）に感想などを沢山くださり、誠に有難う御座います。

厨二分を摂取したいが故に、ちょっとむつかしい漢字っを増やしてみたり・・・

なんてことは無いと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ちなみに、今回のゾンビは故障してます故に・・・

Ｐ．Ｓ前の小説のように、おｋゲフンゲフン・・・皆様が面白いと言ってくださったので、力が湧きましたｗｗｗ

俺たちゃ無敵の芝生部隊！（前書き）

もうサブタイなんてど一でもいいや；；

早めの更新です。

「あー、あったあった。」

ネメシスが立ち去ったあともずっと耳を探して３０分、ゾンビは、ようやく耳をセットで見つけた。

「で、この耳を元あった場所にくっつけて・・・ッ・・・と、これでよし。」

耳を装着した後、周りを見渡す。

「あー聴覚障害があるのと無いのでは、世界は違うなー・・・にしても、バレちまったなぁ」

自分のさっきの言動を思い出し、少しだけ後悔する。

そして、また周りを見渡す。

「・・・そういえば、あいついねぇな・・・どこ行ったんだ？」

ネメシスがいないことに”やっと”気づき、思考を巡らせる。

・・・途中で面倒になり、地に伏せて、仲間を増やす

「うはｗｗｗお久ｗｗｗ」

「おｗｗｗよぅｗｗｗ」

「なんだ？ｗｗｗ」

そして、仲間を１２匹作ったところで、みんなに目立つ位置に立ち、宣言する。

「隊列を組め！空想を叩く前と後に”サー”と言え！虫けらども！」

（ザッザッザッザッ・・・）

「右良し！左良し！前良し！後ろ良し！」

（ザッザッザッザッ・・・）

「俺たちゃ無敵の芝生部隊！」

『俺ｗｗｗたちゃｗｗｗ無敵ｗｗｗのｗｗｗ芝生ｗｗｗ部隊ｗｗｗ』

「俺がするのは笑うこと！」

『俺ｗｗｗがｗｗｗするｗｗｗのｗｗｗはｗｗｗ笑うｗｗｗこと！ｗｗｗ』

「走ってよし！」

『走ってｗｗｗよし！ｗｗｗ』

「笑って良し！」

『笑ってｗｗｗよし！ｗｗｗ』

「ニヤけて良し！」

『ニヤｗｗｗけてｗｗｗ良し！』

「全部良し！」

『全部ｗｗｗ良し！ｗｗｗ』

・・・湖を沿うようにして、二列に並んだ見事な隊列が前進していた。

その隊列の先頭には、かのハー〇ン軍曹と思わしき服装をしている者がおり、その後ろに続くものは皆兵装している。

「むッ！この気配・・・」

突然、ハーマ〇軍曹が立ち止まった。

後ろに続く者たちは、なんだなんだ？とザワつき始める。

「腐れきったウジ虫ども！その虫けらのそうな分際で、丸腰のまま戦闘に駆り出してやるほど私は鬼畜ではない！よって、ありがたーく貴様らに武器を選ばせてやろう！」

・・・もうこの軍曹、役にノリすぎである。

「どうやらこの辺には活発になっている妖精がいるらしい。私の知識が正しければ武器となるはずだ！」

未だに追いつけてない計１２匹の兵士達は、軍曹の話を、耳をかっぽじるように聞いている。

「一人一匹捕まえてこい！捕まえられなかった奴はこの湖を１００周だ！わかったか？」

兵士達は頷く

「よし・・・今から３０分だ！３０分でお気に入りの娘・・・お気に入りの妖精を持ってこい！わかったなら返事をしろ！分かってなくても返事をしろ！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

「なら、さっさと行け！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

軍曹に、４５度の最上級の敬礼をし、妖精”狩り”に出かけた兵士達

軍曹は、それに軽く敬礼した後、ストップウォッチを取り出す。

？３０分後？

「は、離せ！」

「ひゃわ！ちょっどこ触ってんのよ！」

「うぇえん！チルノちゃーん！」

「こんな奴ら・・・あたしの弾幕で倒せたのに・・・クッ」

個々様々な妖精を持って戻ってきた。

中には緑の髪でサイドテールを結んでいて、見た目からして明らかに他のと違う妖精もいたが、気のせいだろう。

「ちょｗｗｗ暴ｗｗｗれるｗｗｗとｗｗｗ危ｗｗｗないｗｗｗ」

「おとｗｗｗなしくｗｗｗしろｗｗｗ」

「ｗｗｗ大ちゃんｗｗｗ捕ｗｗｗまえたｗｗｗ」

・・・気のせいでは無かった・・・

妖精を持ってきた兵士達は、いつもに増して恐ろしく見えた。

幼女な妖精しかいなかったからか・・・はたまたいつも以上にニヤついてるからか・・・

「よーしッ！では、これから妖精を武器として扱えるように調教しておけ！あとで射撃テストをするぞ！わかったら返事をしろ！分かってなくても返事をしろ！」

『サーｗイェッサーｗ』

一方その頃、ネメシスは

「・・・迷った・・・泣きたくなってきた。」

ゾンビ宛に文字を書いた後、森に入ってある程度進んだ途端に、デッカイ蜘蛛が出てくるわ無数の触手を持った液体状の生き物に遭遇するわ両腕が仕込み刀の甚平を着た男と、その相棒に殺されかけたりと・・・

とにかく色々なことがあり、道に迷っている。

「あぁ！なんでこんなところに来ちまったんだよ・・・ん？」

ネメシスは、ふと空を見上げてみる。

「なんだありゃ・・・あの箒にまたがってるのは間違いなく魔女だな・・・片方は・・・巫女？」

「・・・なぁ、霊夢」

「ん？何？」

とある森の道にて、飛行している少女達

声をかけた少女は、いかにも私は魔法使いです。といった白黒のエプロンドレスのような服装をしており、頭にトンガリ帽子を被って

いる。

霊夢と呼ばれた少女は、脇を露出した巫女服を着ている。

「ここの妖精の数、少なくないか？」

魔法使いが問う

「そうねー・・・でも楽だから気にしなくていいでしょ」

巫女が応える。

「いや、楽だからって・・・」

「楽に終わらせられるならそれでいいの！先行くわよ！」

魔女は反論しようと思ったが、巫女は適当に返し、スピードを上げる

「ま、待ってくれよー！」

それに追いつくように魔法使いもスピードを上げる。

俺たちゃ無敵の芝生部隊！（後書き）

・・・今時”どろろ”なんて知ってる奴、あんまりいないかｏｒｚ

映画＝クゾ　ゲーム＝最高　漫画＝知らない

だもんな・・・

あー、やっぱり締めが良くない・・・

クレームや感想やその他もろもろ、何かありましたらよろしくおねがいいたします。

私は諏訪子好きである！異論は認めない（キリッ（前書き）

・・・サブタイでとんでもなく恥ずかしいことを公言したｏｒｚ

だが、やはりテキトーなので、「真面目なサブタイ考えてくれ」という要望が来るまで

異論は認めない（キリッ

あ、そうそう、最初はゾンビから始まります。

・・・色々とややこしいので、本体の方は”ＺＢ”にしておきます。

私は諏訪子好きである！異論は認めない（キリッ

３０分後

「よぉーし！クソッタレども！キサマらの武器とやらの出来を見せてもらおうかッ！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

それぞれどこかに行っていたゾンビ達が集合した。

気になる妖精の方はというと・・・何があったのか、目から光が消え、未だにビクビク怯えている。

「いいか！少しでもダメだったら最上級の盾として使ってやるぞ！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

「よォしッ！そのクソッタレたニヤケ面に見合う娘・・・（じゃなかった）武器を構えろ！」

「一の抱え！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

「ヒッ！」

ゾンビ達が一斉に妖精を抱え

「二の構え！」

『サーwイェッサーwww』

妖精の手を掴み、前に突き出して

「三に狙え！」

『サーwイェッサーwww』

「い・・・いやぁ～・・・・」

妖精の顔の横に、ニヤけ面をくっつけて、手の中指に、テキトーな木を合わせ

その時の妖精は、更に恐怖に怯えた。

「四に撃て！」

ＺＢの号令の後、それぞれの手の平から光が現れ、大量の弾幕が飛

び出した。

「フフフ・・・上出来だ虫けらども！よしッ！武器も手に入れたことだ！さっさと前進するぞ！」

『サーwイェッサーwww』

ゾンビがZBを戦闘に、２列に並ぶ

「俺らの敵はリア充！」

『俺らwwwのwwwwwwはwwwリアwwwww充！www』

「奴らになさけは無用だ！」

『奴らwwwにwwww情wwwwはwwwww無用wwwwだ！www』

「喧嘩売れ！」

『喧嘩www売れ！www』

「邪魔をしろ！」

『邪魔wwwをwwwwしろ！www』

・・・ＺＢ率いる芝生部隊は、湖に沿って、前に進んでいった。

Ｓｉｄｅ　Ｎｅｍｅｓｉｓ

魔女や巫女を見かけてから数十分

やっとのことで開けた道に到着

あの後も、奇声をあげながら木と木を渡る男性がら逃げたり、頭が

爺さんで身体がミノムシの奴から道を聞き出そうとして、異世界に引き込まれかけたり、目から血の涙みたいなのを流しながら、奇妙に笑っている農民を見かけたり・・・とにかくまたまた色々あった。

そこで浮かんだ感想が一つ

「ここって・・・なんでもアリなんだな・・・」

テキトーに回想しながら道に進んでいると・・・

「ウ”ッ！・・・ハァ・・・ハァ・・・」

衛生兵を要請しそうな状態の中華服の美女を発見！

すぐさまその美女に駆け寄る

「だ、大丈夫ですか？！」

見知らぬ怪我人に声をかける時の第一声は、これに限る

「ッ・・・あっあなたは・・・グッ・・・誰で・・・す・・・か・・・」

美女がこちらを見た瞬間に、更に青くなったんだが・・・しかも何気にお祈りまではじめちゃった?!

「あ、えと、大丈夫ですよ?普通に通りかかった人ですから、それに、(このように怪我をしている人を)
こんな時に襲えるわけが無いじゃないですか・・・とりあえずどこか安全なところに・・・って・・・」

さっきより青くなって、しかもお祈りの速度も上がってるし・・・
あ、気絶した。とりあえずこの美女を木の上のもってって・・・と、ここにかけておけばいいかな?

まぁ、この女性はもういいかな?とりあえず先に・・・って、館が建ってるし

とりあえず、お邪魔しまーす。

［ザッザッザッザ・・・］

「美少女見つけたら攫っておけ！」

『美少女ｗｗｗ見つけｗｗｗたらｗｗｗ攫ってｗｗｗおけ！ｗｗｗ』

「美女でもいいから攫っておけ！」

『美女ｗｗｗでもｗｗｗいいｗｗｗからｗｗｗ攫ってｗｗｗおけｗｗ』

「リア充は！」

『リア充ｗｗｗは！ｗｗｗ』

「爆破しろ！」

『爆破ｗｗｗしろ！ｗｗｗ』

「消毒だ！」

『消毒ｗｗｗだ！ｗｗｗ』

「消え失せろ！」

『消えｗｗｗ失せｗｗｗろ！ｗｗｗ』

・・・段々行進歌が危なくなってきてる芝生部隊

「むっ・・・全たーい、止まれ！」

ビシッと効果音が付きそうな感じに、妖精を抱えたまま止まるゾンビ部隊

「最初は空だけだったのに、だんだん霧になってきているので、絶対離れるな！と、最初に言っておけばよかったが、はぐれている者はいないかッ？」

今更注意事項を述べるＺＢ

「おいｗｗｗ二草兵ｗｗｗはｗｗｗどこｗｗｗだ？ｗｗｗ」

「ここｗｗｗだｗｗｗ」

「はぐれたｗｗｗバカｗｗｗは？ｗｗｗ」

「俺ｗｗｗ」

「嘘ｗｗｗ言うなｗｗｗしｗｗｗいるｗｗｗじゃねぇかｗｗｗ」

「俺ｗｗｗのｗｗｗ片目ｗｗｗがｗｗｗはぐれｗｗｗましたｗｗｗ」

「そうかｗｗｗ残念ｗｗｗだったなｗｗｗ軍草ｗｗｗみんなｗｗｗいますｗｗｗ」

「よし、では、前方に何があるか見えるか？」

進む先を指差し、尋ねる

「洋ｗｗｗ館？ｗｗｗ」

「うはｗｗｗ先祖ｗｗｗ様ｗｗｗのｗｗｗ家ｗｗｗ」

「俺のｗｗｗじぃちゃんｗｗｗ５体ｗｗｗ不ｗｗｗ満足ｗｗｗだｗｗｗ」

「うはｗｗｗサイキョーｗｗｗ」

「・・・そうだ！館だ！今から俺たちの目的はあの館に侵入すること
だ！」

「フフォーｗｗｗミスｗｗｗ不法ｗｗｗ侵入ｗｗｗ」

「おいｗｗｗ俺らｗｗｗにｗｗｗ人権ｗｗｗ無いｗｗｗだろｗｗｗ」

「そっかｗｗｗ」

「では、行くぞ！」

[ザッザッザッザッザ・・・」

芝生部隊は、まだまだ前進していく。

私は諏訪子好きである！異論は認めない（キリッ（後書き）

・・・もう、どーでもいーや・・・

とりあえず、☆・・＊Ｈａｐｐｙ－Ｎｅｗ－Ｙｅａｒ＊・・☆

今年も良いお年でありますように。

って言うと、自分だけがアレなので

ただハッピーニューヤー

コメディーって言ったって、コメディーだけじゃ成り立たない（前書き）

サｂ（ｒｙ

ん？ウェスカーって東方の歴史編の初期から入れても問題なさそうｗｗｗ

・・・試しに書いてみるか・・・というかテスト段階で書いてるけどねｗｗｗ

ま、そんなのは置いておいて、「ｍｏｖｅ　ｈｅｒｅ！」

コメディーって言ったって、コメディーだけじゃ成り立たない

Ｓｉｄｅ　Ｎｅｍｅｓｉｓ

「お邪魔しまーす」

いくらなんでもアリな世界であっても、礼儀は欠かしてはいけない。

それくらい心得ているさ！

さて、館に入ったはいいものの・・・

なんでドア開けた瞬間からボロボロになった妖精が大量に落ちてる訳？！

全員気絶してるし・・・何があった。

［ドーン！］

うお！今度は奥の方から音が！

とにかく行ってみなきゃ！

とりあえずダッシュ！

Ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

Ｓｉｄｅ　ＺｏｍＢｉｅ（以後ＺＢ）

現在芝生部隊は、３方向から別れて突入しようとしている。

草佐率いる部隊は湖方面から潜入、草尉率いる部隊は正面から、俺こと軍草率いる部隊は森方面から突入していく。

通信系統の物は一切持っていない、俺の知識を使い、集合地点は地下室の前だ。

３方向だから、小学生でも答えられる１２÷３をして、一つの部隊４人ずつだ。

・・・とまぁ、そんなくだらない説明は置いておいて・・・

「おい、窓の中に人影はあるか？」

「ゼロｗｗｗですｗｗｗ」

「ムックｗｗｗ装備ｗｗｗ」

「スタンバァイｗｗｗ」

現在館の敷地内にある、芝生に隠れている。

何？無理があるって？何を言ってる、俺たちは”芝生部隊”だ。

この芝生という同志に隠れることくらい簡単なことさ。

「くるしっぃ・・・」

「むがっ！」

「っ～！っ～！」

・・・ただ、妖精は目立つから下敷きになってもらってるけど。

「よし、潜入範囲に敵は見当たらない。今なら入れるかもしれない！行くぞ！」

そう言ってみんなを低姿勢ながらも立たせ、できるだけ目立たないように窓に近づく。

「うはｗｗｗオラｗｗｗわくわくすっぞｗｗｗ」

「オラもｗｗｗ」

「わ、わたしも」

「うはｗｗｗカワユスｗｗｗ」

ん？なにやら後ろが騒がしいな・・・見てないぞ？俺は妖精が寝返ったところなんて・・・

むしろゾンビとお友達状態みたいになってる気がするぞ？

まぁいい

「よし、おい、ガムテープみたいなの持ってないか？」

「ガムテープ？ｗｗｗ」

「なんぞ？ｗｗｗそれｗｗｗ」

しまった！何か色々なネタを知ってるから同じタイプかと思ったが、こいつらはここで育ってここで死んだやつらだった。

とすると・・・ん？あれ？俺らって・・・「そうだ！」

「軍草ｗｗｗ声ｗｗｗ」

「あ、すまない・・・じゃなくて、俺にいい案があるぞ」

やっぱり、ゾンビと言ったらあれだろう。

Ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

Ｓｉｄｅ　とあるメイド妖精

「急いで！侵入者がお嬢様に近づく前になんとかして倒さないと！」

メイド長がなにやら慌ててる。そういえば、先に行ったメイド達が帰ってこないわ

侵入してきたのは魔法使いと巫女だって聞いたけど、どこにいるのかしら。

「あなた達はそっちから行って！あなた達はそこからよ！」

そう言って、私ともう一人のメイドに、廊下を曲がらせた。

なるほど、挟み撃ちね

早速潰してあｇ［パリーン！］・・・え？

「何？今の音」

「さぁ？きっと他の侵入者だわ！さっさと潰しておかないと！」

急いで音のした方に向かう

「・・・この部屋からだったわよね？」

「うん」

誰もあまり通らない廊下に、今私と一緒に来ているメイドが、一つのドアの部屋の前にいる。

確かこの部屋は何も無かったはず・・・

とりあえずドアを開けて、すぐに弾幕が撃てるように構える。

「誰！・・・・え？」

ドアを開けて最初に目にしたのは、部屋の中ではなく、何かボロボロの・・・服？しかも物凄く臭い

で、徐々に視線を上に上げてみると・・・

「うはｗｗｗメイドｗｗｗ萌えｗｗｗ」

私の意識は、ここでブラックアウトした。

Ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

Ｓｉｄｅ　Ｎｅｍｅｓｉｓ

なんでだろう、いろんな箇所からガラスの割れる音がして、悲鳴が聞こえるんだけど。

もう爆音とかが気にならなくなってしまったよ。

で、適当に散策を続けてみたら

「・・・地下？」

半開きになっていたドアの先が真っ暗だったので、除いてみたら階段みたいなのがあった。

なにこれ怖い。

「逃げちゃダメだ逃げちゃダメだ逃げちゃダメだ！ネバーギブアップ！」

勢いに任せて突入・・・したら思いっきり転んで落ちちゃった。

で、落ちた先が寒かったんだが・・・

「あれ・・・これは！」

寒かったもとい、冷たかった理由が分かった。
自分が青い少女と戦った時に使った者が５・６個置いてあったからだ。

「てか、なんでこんなところに？ん？ドア？」

氷漬けゾンビを見てると、その奥にドアがあった。
とりあえず、氷漬けをどかして、ドアを開けてみる。
何かちょっと硬くて、ドアノブに呪文てきなのが書かれてた気がするけど・・・開けちゃったから問題無いよね？

「アレ？新シイオｎ［バタン！］

・・・良し！とりあえず撤退だ！

と、ドアに背を向けた瞬間に、ドアが爆発した。

非、爆発したにも関わらず、破片などが無い

「アハハハ！待ッテヨ！ン？ナニコレ？」

カタカナ語って、見ても普通にしか感じ取れないけど、実際に聞くと物凄く怖いッ！

しかも、少女が出てきた部屋には、無数のメイドと思わしき死体が積み重なっていて、人体のパーツと思わしきものが所々散らばってるから尚更怖い！

で、肝心の少女・・・なにあれ？コスプレしてんの？と思える赤と白基準の、なんだろう？ミニスカートタイプのドレスみたいな？とにかくそんな感じの服装をしている。

背中には、枝のような物が生えており、水色、青、紫というふうに、七色の宝石がくっついている。

あと、目の焦点が合っておらず、瞳孔も開いてる。

・・・精神異常者か

その少女は、氷漬けにされてるゾンビに目が行ってる。

チャンスだ！

そして、態勢を整えて階段に寄ろうとしたが・・・

また爆発が起こって、今度は天井が崩れ落ちて、出口をふさいだ。

「逃ゲチャダメダヨ？マズは、オニサンカラダァー！」

・・・あのＺＢみたいに、自然にこのカタカナ言葉が治って欲しい・・・

そう願い、少女と向き合うため、後ろに振り返る。

何があったかは知りたくは無いが、そこにあったはずのゾンビ達は消えていた。

「・・・ねぇ」

「ナニ？」

「お話しようよ」

とりあえず、どこかの道化師を真似て、笑顔を向けてみる。

「アハハ！コワイカオ～！」

・・・俺の何かが崩れた。

「ソノカオ、ナオシテアゲルー！」

「やっぱり強制イベントか何かか？できれば逃がしてほしいな」

「ヤダ」

「あっそ、じゃあ」

容赦はしない、まともに話し合えるような奴じゃないなら、やられる前にやっておくだけだ。

［Ｍ２０２ミニガンを装備しますか？］

＞はい　いいえ

とりあえず、これで蜂の巣にでもなってもらおう。

湖の少女も死ななかったし、きっとこいつも人外だろう。

それの証拠として、その少女の背後には無数の死体があるわけだし。

弾を発射させるために、砲塔を回転させる。

「ナニソレー？新シイオモチャ？」

そう言って、ミニガンに手のひらを向けて――――

「キュットシテ、ドッカーン！」

「うわっ！」

――――拳を握った瞬間にミニガンが爆発した?！

いや、ドア同様に破片などが無い。

だけど、爆発は本物のよで、構えていた右腕が吹っ飛んだ。

ちくしょう！あんなことができる奴相手にどうしろってんだ！

「アハハ、コワレチャッター」

俺は・・・ここで終わるのか・・・？

［おい！ここだ！ん？がれきが邪魔だな・・・一斉に構えろ！］

いや、まだミサイルがある。だけどまた壊されるだけだ

［いいか？良く狙え？］

一か八か・・・右腕を再生させる。上半身の右半分が今や第二形態の状態だ。

そのまま少女に突撃を試みる。

［撃て！］

だが、その行為を突然遮られた。

「ん？あー・・・これは予想外・・・だけど死体はー・・・うん、十分だね！よし！あの少女に突撃だ虫けらども！」

『サーｗイェッサーｗｗｗ』

「サー！イェッサー！」

後ろのガレキが吹っ飛び、破片などが少女に衝突して、少女は奥に飛ばされる。

幸い自分は、死体の山に衝突しただけだ。

そして、ガレキの元あった場所には、今まで見たこともないくらいに輝かしく見えるＺＢと、その量産達、そして何故かその量産と同じくらいはいるだろう、大量の妖精達が入ってきた。

コメディーって言ったって、コメディーだけじゃ成り立たない（後書き）

・・・待て、これはこれで大丈夫なのか？

［大丈夫だ、問題ない］

いや、そこは「大丈夫じゃない、大問題だ」だろうが！

コメディーどこ行った・・・

あー、この回読んだ皆さんに、今のうちに言っておこうと思います。

まず、ネメシスですが、実際はガトリングなんて映画の？だけです。

ので、破壊させていただきましたーw

あ、痛い！手榴弾投げ込まないで！・・・え？手榴弾？！

ゲームではロケットランチャーのみで、どこまでもしつこく、そして恐ろしい奴です。

次に、妖精の調教ですが、決してイヤラシイことなんて入ってません。

言葉が言葉だけに、一応・・・

大体ゾンビを考えればありえそうなコトをしました。（部位を・・・して見せ、脅すとか）

あと、あの娘は、ＥＸボスなだけに、結構強めに導入させました。

・・・何かスミマセン

クレームなども受け付けてますので、長文失礼しました。

あ、でも、感想とかの方が嬉しかったりします。

なんかもう色々とごめんなさい　（前書き）

うつっちゃったねごめんなさい

別に謝りたいわけでも無かったり・・・あったりするんだけどねごめんなさい

コメディーが少ないねごめんなさい

コメディー復活に向かうんで許してください

カタカナ語とか厨二ですねゴメンナサイ

スペルカードあまり出てませんねゴメンナサイ

なんかもう色々とごめんなさい

ゾンビ達が狭い地下室に突入する。

ネメシスは正気を取り戻し、死体を除けながら立ち上がる。

少女は

「アハハ！オモチャガ増エター！」

さも何事もなかったかのように立ち上がり、焦点の合わない目でゾンビ達を見て喜ぶ

「一箇所に固まるな！できる限り散開しろ！そして奴の手の向きにも注目しろ！手を向けられたらとにかく逃げろ！」

『サーwイェッサーwww』

ＺＢが的確な指示を出す。その姿は指揮官のように見えるのだが、何故か最初にやられない

ゾンビや妖精は、その指示に従って散開する。

妖精は、できるだけゾンビの背後におり、いつでも盾にできるようにしながら弾幕を放つ

「フランｗｗｗちゃんｗｗｗうふふｗｗｗ」

「おいｗｗｗ何ｗｗｗをｗｗｗ考えｗｗｗている？ｗｗｗ」

「腐乱ｗｗｗ仲間ｗｗｗじゃないｗｗｗかｗｗｗ」

「おい！こんな時までコントしてんじゃねぇ！さっさとやらねぇとやられちまうぞ！」

「サーｗイェっぐふ！ｗ」

そんな状況でもコントをしていたゾンビがいた。

コントをしていたゾンビに、ＺＢがツッコミ（？）を入れて止めるも惜しく、そのゾンビ２体は消し飛んだ。

「クソッ！時間を稼いでくれ！」

ＺＢはそう言って、死体に紛れ込むようにして横になる。

「” 禁忌「フォーオブアカインド 」”」

少女が呪文のようなものを唱える。

すると、少女の数が増え、一人だったのが四人になった。

「お前らの真似だ！喰らえ！”芝腐「これはゾンビ(Zombie)ですか？いいえ弾丸(Ammo)です」”」

ネメシスも何かを唱え、付近にいたゾンビを持ち上げては投げる、持ち上げては投げるを繰り返していった。

「うはｗｗｗヒドスｗｗｗ」

「あぁ！まだ投げないでよ！」

「優しいｗｗｗうれしいｗｗｗ」

「盾が無くなっちゃうじゃない！」

「ｗｗｗ」

妖精の批判を受けようが気にせず投げまくる。

だが、少女Ｙが次々と飛んできたゾンビを破壊していくため、もう数が少ない

と、何やら山になっていた死体が崩れ始めた。

「ん？」

ネメシスは、崩れた山の方を見る。

そこには、無数の、産まれたばかりの小鹿の萎えた足取りのように立っているメイドがいた。

非、メイドではなく、”元”メイドだ

今は――――

「あ”アアァァ！！」

――――怨念を持つ動く屍だ。

（あれ？なんでこいつらは芝生が付かないんだ？）

ネメシスは疑問を持ちながらも、増えた弾丸を投げまくる。

今度の弾丸は、投げなくとも敵に向かっていくようだ。

敵となっている少女の元にたどり着くと、手、頭、足やその他いろいろと押さえ込んだ。

「イタ、イタイ、イタタタ、ハナシテヨー、ナンデソンナコトスルノ？イタた」

もう攻撃する必要は無くなったと思ったのか、少女への攻撃が止んでいる

「痛い！痛い痛い痛い！離して！誰か、誰か助け」

「ア”アアァァアア！！」

「嫌あああああ！！！！」

どうやら正気に戻ったようだ。

開いていた瞳孔は元に戻っている。

「そこまでだ、あとはもう臨終していいぞ」

ＺＢがそう告げた後、メイドの屍達が次々と倒れていった。

「・・・というか、ゾンビを怖がる吸血鬼がいるなんて、笑いものだよ」

『ワアアアアア！！！！！！』

ＺＢの決めゼリフ（？）の後に、妖精とゾンビの歓声が響いた。

と、同時に、大量のナイフが降りかかってきた。

「グハｗｗｗ」

「盾ｗｗｗ」

「マジｗｗｗでかｗｗｗ」

それを確認した瞬間、妖精はメイドの死体や、近くのゾンビを盾にしてナイフの雨を防いだ。

「・・・貴方達は何者ですか・・・」

ネメシスや、ゾンビといった気持ち悪い化け物の集団が、一斉に声の方に振り向いた。

そこには、血の気を引き怯えながらも、勇敢に立ち向かおうとするメイド長の姿があった。

なんかもう色々とごめんなさい　（後書き）

作「コメディー！」

コ「作者！」

［エンラー！イヤー！ユーハッピーニューアー！♪］

作「コメディーーー！！！」

コ「作者あああ！！！」

［ドゴォ！］

短かったですねゴメンナサイ

感想など待ってます。ごめんなさい

ＰＡＤｖｓＤｅａｄ（前書き）

サブタイ、特に意味はありません

ただ、サブタイもネタ扱いしていると思ってください

［サブタイの心得を手に入れた］

ＰＡＤｖｓＤｅａｄ

「あ、貴方達は何者ですか！」

怯えながらもメイド長は言う

「何者って言われても・・・」

ネメシスは口ごもる。

自分は見てのとおりの化け物でーす

で、済むかもしれない話だが、メイドとは従者

こちらにはその従者の主のような人（？）を囲んでいる。

多分だが、化け物＝主を食べると、解釈してしまうだろう。

と、そんな時、ＺＢが口を開いた。

「俺たちは、国に属さｎグフッ！」

危ない危ない・・・どこかの天国の外側の傭兵さんにならなくてはいけなくなるところだった。

「俺ｗｗｗたちｗｗｗ無敵ｗｗｗのｗｗｗ芝生ｗｗｗ部隊ｗｗｗ」
「俺ｗｗｗのｗｗｗ彼女ｗｗｗはｗｗｗ募集ｗｗｗ中！ｗｗｗ」

いきなりゾンビが歌いだした。

「笑ってｗｗｗよし！ｗｗｗ」
『笑ってｗｗｗよしｗｗｗ』

ゾンビと妖精が笑いながら言う

「ニヤｗｗｗけてｗｗｗよしｗｗｗ」
『ニヤｗｗｗけてｗｗｗよしｗｗｗ』

ニヤけながら言う

「芸ｗｗｗよしｗｗｗ」
『芸ｗｗｗよしｗｗｗ』

ゾンビと妖精が協力して綺麗な装飾弾幕を張る。

「・・・もういいわ、分かったから、とりあえず敵では無いのね？」

「うんｗｗｗ」

（メイドｗｗｗ萌えｗｗｗ）

（うはｗｗｗさっきゅんｗｗｗ）

ようやくメイド長は分かってくれたようだ。

だが、若干少数のゾンビの目が怖いぞ？何を考えている？

ネメシスは、メイド長に歩み寄り、色々と訂正したり、なんやかんやして、とりあえずあの少女について聞いた。

「あの娘は、お嬢様の妹様です。名前は、フランドール様です。
妹様はこちらの世界に移った時には既に能力が暴走しており、危険だからといって幽閉しておりました。
しかし、長期間幽閉していたせいか、精神状態が保たれずに、狂ってしまいました。」

「長期間とは？どのくらいでしょうか？」

初見なので、敬語で話す。まだ完全に信用しているわけじゃなさそうだから。

「確か・・・４２５年くらいだったと思います。」

『な、なんだってー！！！（ｗｗｗ）」

その場にいたメイドの死体や、妹様以外の者が大声をあげた。

「うはｗｗｗそんなｗｗｗにもｗｗｗ長くｗｗｗかｗｗｗ」

「よくｗｗｗこんなｗｗｗにｗｗｗ保たれたｗｗｗなｗｗｗ主にｗｗｗ肉体ｗｗｗ」

一人のゾンビが、そのフランドールに近づく

しかし、目が異常である。

「！妹様に触るなッ！」

「うは！ｗｗｗ痛いｗｗｗ」

メイド長が消えたかと思った次の瞬間、フランドールに近づいていたゾンビの腕に、ナイフが刺さる。

「ＰＡＤ長ｗｗｗヒ「今なんて？」ｗｗｗえ？ｗｗｗ」

メイド長の形相が変わる。

ヤバイ！と思った時は既に遅く、部屋全体を覆うように、無数のナイフがゾンビ達を囲んでいた。

ネメシスやＺＢそれから妖精や一部ゾンビは、既に部屋から退散していた。

「自分の言動に後悔しなさい！」

『ア”アアアアアァァァ！！！！！』

何もやっていないゾンビも巻き込んだ攻撃が、一回では終わらず、何度も続いた。

「いや～、危なかったねーw」

「おい、また戻り始めてるぞ」

「あーwいいのいいのwそんな細かいコト気にしちゃwww」

現在、館の外にいる。

妖精達はみんな逃がし、ゾンビ達はそれを追いかけてどこかに行った。

地下室に残っているゾンビ達は・・・骨も拾ってもらえないだろう

「でもよー、何かつまんねーなー」

ＺＢがあくびをしながら言う

「何がだ？」

ネメシスはその問いを聞く

「いや、だってよーこの世界に来て俺って仲間増やしてばかりじゃん？なのにお前は銃とか使って戦ってるし」

「いや、まぁそうだけれども、それでも別にいいんじゃないか？」

「いやｗよくねぇしｗｗｗ」

ＺＢとネメシスは談笑しながら門にたどり着く。

「あー、これからどうすっかなー・・・」

「そうだなｗこｒ「妖怪を見つけたぜ！」最後まで言わせろしｗｗｗ」

二人同時に声の聞こえた方を向く

そこには、ネメシスが一度見かけた魔法使いと巫女がいた。

「妖怪？ならさっそく退治してもうけなきゃね！」

「新しい実験材料になってもらうぜ！」

巫女はともかく、魔法使いが何やら物騒なことを言ってきた。

「おい、お前にとっちゃいい機会なんじゃないか？」

「そうっぽいなwさてwそんじゃ早速www戦ってみようwww」

［　巫女と戦う
＞魔法使いと戦う］

ＰＡＤｖｓＤｅａｄ（後書き）

グダグダ・・・意味不明・・・寝起き投稿はやっぱり頭が廻んない（泣）

後で訂正するかもしれません

感想やその他何かあったら、教えてください。

ＢＩＯ３のバラケルススの魔剣って・・・人工マスパだよね？！（前書き）

・・・もう言うのやめた・・・

だけどこれは言わせて

「なんでたった一匹の化け物の存在だけで人工的にマスタースパーク作れちゃうの？！」

あと、この話はネメシスメインです。

ＢＩＯ３のバラケルススの魔剣って・・・人工マスパだよね？！

ＺＢを持ち、前に突き飛ばす。

そして自分は素早く後退する。

すると、先ほどまで自分たちがいた場所には無数の針と札が飛んで来て、レーザーで穴だらけになる。

「ほ～・・・これまた恐ろしいな・・・」

軽口叩いてる場合かＺＢ？！

［ロケットランチャーを装備しますか？］

＜はい　いいえ

そんな感じに内心で相棒にツッコミを入れ、スティンガーミサイルを構える。

・・・今思い出したが、これって対地対空なんだよな？設計してくれた人に感謝しなくては

着地と同時に武器を構え、箒に跨っている魔法使いに標準を定める。

巫女は既におらず、ＺＢもどこかに消えている。

魔法使いの弾幕がこちらに向かって飛んでくる。
それの流れがこちらに来る前に・・・・・・発射ッ！
スピードが遅いから、さもそんなものが飛んでいなかったかのように突っ込んでくる。
だが、次の瞬間、魔法使いは背後の爆風に巻き込まれ、箒から転がり落ちた。

「危なッ！一体なんなんだその棒は？！」

その隙を狙って、全力疾走をする。
魔法使いだから、近距離戦闘は苦手だろう・・・

「そう思っていた時期がｗｗｗ僕にもありました」

と、突然横からボロボロのＺＢが現れた・・・って！しまった！
そのＺＢに気を取られている内に、魔法使いは箒に乗っていた。
そして、それを楽に見届けさせてはもらえず、どこからか大量の針が飛んできた。

それを後退して避け「痛ッ！避けるなしｗｗｗ」魔法使いの近くを見渡す。

「こっちよ！”霊符『夢想封印』”！」

気がついたら、後ろに回られていた。

そして、巫女がまた何かを唱えた後、ホーミングする光の玉が俺（ネメシス）を叩きつけるように集まる。

それを避けるには遅すぎて、全てをモロに喰らってしまった。

だが、３大タイラントとして名を残しているネメシスが、このようなことで倒れるわけがない

何事も無かったかのように立ち続ける俺を見て、巫女がありえない物を見たような顔をしていた。

「嘘・・・なんで効かないのよ・・・妖怪なら効くはずなのに」

「悪いが、科学（主にアンブレラ）の力を舐めちゃいけないよ？」

効いていないわけではない・・・むしろかなり効いたんだが、それを見せるとマズイので、カッコつけてダメージを隠す。

「おっとw俺の存在を忘れちゃいないかい？ｗｗｗ」

ＺＢがまた何かを言い出した。

・・・このパターンって、どこかとデジャヴを感じるが、構わず振り向く

そこには、腕に銀色の銃を持つＺＢが居た・・・・・どこから取り出した？

その銃は、クリップ（持つところ）が木製で、アンブレラ社のロゴマークが着いている。

って、これはッ！

「そうｗこれぞまさに数々のプｒ「五月蝿いッ！」ｗｗｗ最後まで言わせろしｗｗｗ」

巫女がしゃべっている最中のＺＢに針を投げる。

それが刺さろうが、あんまり変わらないＺＢ

「さっきの仕返しだｗ逝くぜ！ｗｗｗ」

ＺＢは、持っていた”マグナム”を巫女に構え、引き金を絞る。

ドンッ！という破裂音と共に、ＺＢの腕が後ろに吹き飛ぶ・・・えっ？

「うはｗｗｗそういや腐敗してたｗｗｗ」

対する巫女を見てみる。

巫女は、先ほどの破裂音に驚いているだけのようだ。

肝心の弾丸は、何故か俺のコートに当たってた。

「いくぜ！”恋符『マスタースパーク！』”」

「さっさと帰りたいの”霊符『夢想封印　集』”」

「え？ちょっ」

「うはｗｗｗぐっどらっくｗｗｗ」

気がついたら、視界は光で埋め尽くされて真っ白になり、意識が消えた。

ＢＩＯ３のバラケルススの魔剣って・・・人工マスパだよね？！（後書き）

あ、かなりズレた・・・

ＺＢｖｓ巫女の戦闘描画は別で書こうと思ってたのに・・・

しかもやけに短い・・・

グダグダ・・・

ごめんなさい（怯泣）

できればご指摘、感想、クレームなどなど

何かありましたら、よろしくおネギいいたします。

巫女と魔法使いと?と・・・時々?（前書き）

ネタが分かる人は暗黙の了承を

さて、母のふるさとから帰国してアク解してみたわけですがー・・・・

うん、１万行ってた

これって祝うべきなのかな?よくわかんねぇ・・・

では、寝起き投稿を～・・・ネム

バンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバンバン

バン　　バンバンバン゛ン　バンバン

バン（ω・）　バンバンバンバン゛ン

／／ミつ／ーーー／

／／／ー

ちなみに、短いです。

巫女と魔法使いと?と・・・時々?

Ｓｉｄｅ　霊夢

「・・・案外呆気なかったな・・・」

横で白黒魔法使いの”霧雨・魔理沙”が言う

無理もないわ、味方に気を取られて死んじゃったのだから（注：死んでません！）

倒れている妖怪を見る。

・・・見たこともないわね、一体なんなのかしら

とりあえず、封印の準備をする。が

「あ～！見つけたわ！さっきはよくもやってくれたわね！」

?が来た。

しかし、私たちを見ないで、倒れている妖怪の方を指さしながら叫んでいる。

「?、何か知ってるの?」

「?じゃないわよッ!ちゃんとチルノってサイキョーな名前を持ってるのよ!」

サイキョーなのかしら・・・

「そいつらはそんなサイキョーなアタイにケンカを売って勝った奴らよ!」

「お前・・・ホントに自覚がないんだな、正直バカなんだぜ・・・」

魔理沙に同意するわ

「で、何の用なのよ」

「よく聞いてくれたわね!実は「”恋符『マスタースパーク!』”」ちょっと!まだ何も言っｔ[ピチューン!]

チルノが話している途中で、魔理沙がマスタースパークを放つ

放った本人を見てみると・・・こちらを見ながらやったぜと自慢するような顔をしていた。

「・・・いくら私でも、それはあんまりだわ。」

「まぁまぁ、めんどくさいことは嫌いだろ？」

「まぁ・・・・」

なんかまとめられてしまった。正直イラっと来た。

「クックック・・・汝、今宵を目覚めさせる、我の攻撃を避けるとは、実に愉快なことだ。」

「ッ！」

横に避ける先ほどまで自分がいたところに、氷の塊が飛んできた。

それと同時に、チルノのところから膨大な妖力を感じ取った。

・・・チルノが目を覚ました。

しかし、今までとは桁違いの強さを感じる。

「あぁ、素晴らしいい時に目が覚めたものだ。クックックこんなメインキャストとご対面できるのだからねぇ」

口調が変わっている。それと、綺麗な青だった部分が、不気味な赤色に変わっていた。

「魔理沙ッ！」

「わかってるぜ！」

二人で左右に展開しながら、弾幕を張る。

「ほぅ・・・精々我を楽しませることに尽くすことだな」

だが、そんな弾幕も軽々と避けられてしまう。

そして、気がついたらチルノは消えていた。

一体どこに・・・ッ！

「魔理沙！」

魔理沙がこちらを向くと共に、後ろから迫っていた弾幕を避ける。

「不愉快・・・実に不愉快だよ諸君ッ！さっさと朽ち果てて欲しいね！」

そのセリフが聞こえた瞬間、チルノが眼前に現れて、弾幕を放ってきた。

博麗の巫女に代々引き継がれている”勘”で、それを避ける。

「クッハハハアアアアア！！！落ちろおおおおお！！！！！」

「魔理沙！」

何度あの白黒魔法使いの名前を呼んだか・・・しかし、それを気にしてはいられない

強い・・・これはサイキョーを超えているかもしれない

チルノは、魔理沙の眼前に現れて、蹴りを入れる。

それをモロに喰らった魔理沙は箒から落ちる・・・寸前に箒を掴んで、持ちこたえる。

「ククク・・・まずはお前からだあああああ！！！！！」

チルノが氷の塊を振りかぶる。

まずい・・・間に合わないッ！

そんな時、大きな音と共に、チルノの氷が砕けて爆発し、チルノが吹き飛ぶ。

「スタアァァァズッ！」

そんな叫び声が、倒れていた妖怪の方から聞こえてきた。

そこには、大きな鉄の棒の穴を構えながら、こちらを見ている妖怪の姿があった。

巫女と魔法使いと?と・・・時々?（後書き）

厨二が難しい・・・この歳が一番厨二になれるはずなんだけど・・・

ちきせえええぇ!!!

ちなみに、この?はＥＸやＬｕｎａｔｉｃを軽々超えています。

と言っても、原作は紅魔卿にかやったこと無いし、未クリアだから、

よくわかりません。

感想など、何かありましたらよろしくお願いします。

あ、クレームでも受けてみせますよ！＞＜

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5420z/

ネメシスとして幻想入り

2012年1月14日12時46分発行